

企業や団体など、社会に出てから求められる英語力とは？
一仕事の上で必要なことを、自分のことばでいえる(表現・説明できる)英語力ー

開倫塾
塾長 林明夫

Q：塾長は、中学校・高校・大学・大学院などに招かれて、社会に出てから求められる能力とは何かをお話になっているそうなので、お聞きしたいことがあります。企業や団体など、社会に出てから求められる英語力とは何ですか。

A：(1)例えば、外国の企業が日本にお金を投資して、日本で企業活動をするのを、「対内直接投資(日本の国内に対して投資する)」といいます。名目 GDP(国内総生産)に対する「対内直接投資残高」の割合は、3.4 % (2023 年度末)と、国際比較で、世界 198 か国中、第 196 位。日本の下には、2 つの国しかありません。

(2)日本は、世界第 4 位の経済大国であり、科学や技術、教育の水準は極めて高く、電力も安定、上下水道も完備、物価は安く、法律も整備、安全な国と、魅力にあふれています。

(3)なぜ、外国の企業は、日本の企業や団体にお金を投資して仕事をしないのか。日本への投資が、198 か国中、下から 3 番目の国なのか。

○これは、日本にとって大問題です。中学校での「調べ学習」や、高校での「探究型学習」、大学や大学院での「調査研究」の「テーマ」として、是非、この原因を調べ、対策を考え、提言にまとめ、発表してください。

Q：このことと、社会で求められる英語力とは、どう関係があるのですか。

A：(1)勘のいい方はわかりかと思いますが、外国の企業が日本に投資しないのには、様々な原因があります。

(2)英語に関係する原因としては、

- ①「英語で仕事ができる人が採用しにくい」
- ②「取引したい企業に英語で仕事ができる人が少ない」
- ③「英語で診療を受けられるクリニックや病院が少ない」
- 「仕事の上で必要な英語力」が求められます。

(3)「連れてきた子どもが、英語で学べる学校が少ない」という問題もあります。

Q：外国で生活や仕事、勉強をする時や、外国の企業や団体と仕事をする時にも、「仕事や生活、勉強で必要とされる英語」が大切なのですか。

A：その通りです。「仕事や生活、勉強で必要なことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)英語」を身に着けることが必要です。

Q：では、どのように英語を勉強したらよいのですか。

A：(1)①多くの日本人は小学校、中学校、高校、大学、短期大学、専門学校、専修学校、大学院、コミュニティーカレッジ、ラジオ、TV、通信教育等、様々な「英語の教育プログラム」で英語を学んでいます。

②「英語のテスト」で点数が取れて入試に合格しても、英検や TOEIC、TOEFL など点数は取れても、英語で、いたいことがいえない・書きたいことが書けない、英語の本を最後まで読み終えることができない、英語でメモやノートが取れない、英語でレポートが書けない、つまり、英語が身に着いていない人が多い。

③それは、なぜか。

(2)①答えは、とても簡単です。

②日本で英語を学ぶ人のほとんどは、学校やいろいろなところで英語を勉強をしても、十分に「復習」する人が少ない。学んだ英語を「発音練習・暗唱」「書き取り練習」をする人は、さらに少ないからです。

③英語はことばですから、「目で文字を追うだけ」で身に着けることは難しいからです。

(3)では、どうしたらよいか。

①英語の授業の「復習」とは、その日に学んだ「英語」のテキストや「授業ノート」を、もう一度ていねいに「学び直す」ことです。

②どのような意味や内容の英語か、辞書で意味を確かめ、文法の勉強もし直す。練習問題はすべて解き直す。そして、授業の内容の「理解」に努める。

③英語の授業の「定着」とは、一度「理解」し、「授業」で学んだ「英語のテキスト」「英語の授業ノート」を、全部、ていねいに「身に着ける」ことです。

○このように、「一度学んだ英語」の「復習」と「定着」を、コツコツていねいに行えば、英語は身に着きます。誰でも、「仕事に必要な英語」は確実に身に着きます。

Q：では、どのように「定着」をはかればよいのですか。

A：(1)学んだ英語・英文はすべて、母音・子音・イントネーション・抑揚に注意して、正確に、スラスラよく読めるようになるまで「発音練習・暗唱」することです。

(2)「発音練習・暗唱」した英語・英文はすべて、何も見ないで正確に書けるようになるまで「書き取り練習」することです。

(3)日本の学校や学習塾、予備校では、「定期試験」や「入学試験」「模擬試験」「英語検定」など、「英語の問題を解く」勉強もたくさんします。「一度解いた英語の問題と解答解説」に出てきた英語・英文も、「復習」「定着(発音練習・暗唱、書き取り練習)」の対象とすることが、「重要」です。

Q：最後に一言どうぞ。

A：①仕事に就いた後も、「一度学んだ英語」は、必ず「復習」、「復習」し終わったら、「発音練習(暗唱)」「書き取り練習」。「一度学んだ英語を用いて、自分のことばでいえる(表現・説明できる)」ことを目指す。これが、社会に出てから求められる英語の学び方です。

②日本で英語を学ぶ人が「復習」と「発音練習(暗唱)」「書き取り練習」をていねいに行えば、「社会で役立つ英語」が身に着きます。

③外国の人々とも、一緒に仕事ができます。外国で、仕事、生活、勉強する時にも役立ちます。

*では、がんばって！

2025 年 10 月 13 日(日)21 時 32 分